

創世記30 創世記19章1節～38節

「ソドムとゴモラの滅び」

イントロ：

1. 前回までの復習

- (1) 神はアブラムを選び、彼とその子孫を通して全人類を救おうとされた。
- (2) それがアブラハム契約である。
- (3) アブラハムは、3人の客をもてなした。ひとり神、ふたりは天使。
- (4) サラは来年息子を産むとの約束が与えられた。
- (5) アブラハムに、ソドムとゴモラの滅びが預言された。
- (6) アブラハムは、ロトとその家族のことを心配し、執りなしの祈りをした。

2. メッセージのアウトライン

- (1) 客の歓迎
- (2) 客の保護
- (3) 家族の説得
- (4) 町からの避難
- (5) 人生の総決算

3. きょうのメッセージは、私たちに何を教えているか。

- (1) 神が最も憎まれる罪とは何か。
- (2) 絶望の中に見える希望の光とは何か。

このメッセージは、神が最も憎まれる罪について、また、絶望の中に見える希望の光について学ぼうとするものである。

I. 客の歓迎

1. ふたりの御使いが夕暮れにソドムに着く。

- (1) 時は「夕暮れ」。
- (2) それゆえ、ロトは彼らを家に招く。

2. ロトはソドムの門のところに座っていた。

- (1) これがロトの生活の最終段階
 - ①遊牧民として、町の外に住んでいた（13：12）。
 - ②次に、ソドムの町に住むようになった（14：12）

- ③最後に、ソドムの門のところやすわらようになった。
 - (2) 彼は町の長老のひとりになった。社会的地位と権威を持つようになった。
 - ①恐らく、アブラハムのお陰でロトはこうなったのであろう。
 - ②人々は、アブラハムによって自分たちが救出されたことを知っていた(14章)。
 - ③ロトは、アブラハムの甥である。
 - (3) ロトは高い地位に着いたが、その影響力は無きに等しいものであった。
 - ①エジプトに住んだヨセフや、バビロン捕囚になったダニエルとは違う。
 - ②ヨセフとダニエルは、神から召された場でその使命を果たした。
3. ロトは、ふたりの客を家に招いた。
- (1) 彼らが天使であることを知らない。
 - (2) 天使たちは、最初はその誘いを断っている。
 - ①その理由は、ロトを試すためであった。
 - ②ロトは、町の広場がいかに危険であるかを知っていた。
 - ③知っていながら、広場で夜を過ごすことを認めるのは、無責任な行為である。
 - (3) ロトがしきりに勧めたので、天使たちはロトの家に入った。
 - ①これでロトは、テストに合格した。
 - ②旅人を守ることは最高の徳とされていた。特に、遊牧民の間ではそうであった。
 - ③「パン種を入れないパン」を焼いた。聖書ではここで初めて出てくる。

II. 客の保護

- 1. 同性愛というソドムの罪が、明らかになる(ソドムがなぜ滅ぼされるかの例証)。
 - (1) 人々はロトの家を取り囲み、「彼らをよく知りたいのだ」と叫んだ。
 - (2) 「知る」とは親密な関係のこと。
 - ①つまり、ホモセクシャルの関係を結ぶことを願ったということ。
- 2. ロトは、ふたりの未婚の娘たちを代わりに提供しようとした。
 - (1) 客の安全を守るために、これほどの犠牲を払う覚悟をした。
 - (2) 彼は、レイプ(強姦)の罪よりも同性愛の罪の方が重いと考えた。
 - (3) 聖書は、同性愛の罪を厳しく糾弾している(レビ18:22、ロマ1:26~27)。
 - (4) ロトの妥協は、アブラハムの神が許容する範囲をはるかに超えていた。
 - (5) このジレンマは、アブラハムから離れ、ソドムに付いたことの結果である。
- 3. 人々は、説得されなかった。

- (1) ロトは遊牧民であった。よそ者。
 - (2) 彼らは、ロトをも辱めようとした。
 - (3) ロトとふたりの人を捕まえようとした。
4. ロトは、ふたりの人を助けようとしたが、最後はこのふたりに助けられた。
- (1) ロトは家の中に連れ戻された。
 - (2) 戸口にいた者たちは、目つぶしをくらった。
 - (3) ダマスコ途上のパウロと同じ体験。

Ⅲ. 家族の説得

1. ふたりの天使の命令

- (1) ほかにあなたの身内の者がここにいますか。
- (2) あなたの身内の者をみな、この場所から連れ出さない。

2. ロトは家を出て、婿たちの家に向かう。

- (1) 人々は目つぶしをくらっていたために、ロトは安全に外に出ることができた。
- (2) 彼は婿たちを説得したが、婿たちには「それは冗談のように」思われた。
- (3) ロトの姿から、現代の父親像の喪失に似たものを感じる。

3. 夜が明けるころ

- (1) 御使いたちはロトを促し、家にいる者だけでも集めて逃れよと語る。
- (2) ここで、アブラハムの祈り（18：23）が叶えられている。
「あなたはほんとうに、正しい者を、悪い者といっしょに滅ぼし尽くされるのですか」
- (3) ロトはためらった。まだ家族全員が集まっていないから。
- (4) 天使たちは、彼とその妻、ふたりの娘たちの手をつかんで、町の外に連れ出した。
- (5) アブラハムの祈りのゆえである。アブラハム契約の祝福の側面が現われた。

Ⅳ. 町からの避難

1. 天使たちの命令

- (1) 急いで逃げよ。できるだけ早く、町から遠ざかれ。
- (2) うしろを振り返らず、前だけを見て進め。
- (3) ヨルダンの低地から逃げよ。低地全体が滅ぼされるから。

(4) 山に逃げよ。

- ①「山」には定冠詞が付いているので、これはヨルダンの山のこと。
- ②ロトの子孫はそこに住み着くことになる。

2. ロトの願い

(1) 近くにある小さな町に逃げさせてくださいと懇願する。

(2) ロトのこの願いは、聞き届けられた。

- ①「小さい」ということが強調されている。
- ②その町は、元はベラ(14:2、8)と呼ばれていた。
- ③この時からツォアルという名になった。
- ④ここには、ヘブル語のことば遊びがある。

*ここで使われている「小さい」という語は、「ミツァール」。

*町の名は「ツォアール」で、発音が似ている。

(3) 祈りの答え

- ①ソドムを救って欲しいというアブラハムの祈りは聞かれなかった。
- ②ツォアル(小さな町)を助けて欲しいというロトの祈りは聞かれた。
- ③信仰による祈りは聞かれるというのが、原則である。
- ④と同時に、祈りの答えは、すべて神の権威によるということも真理である。

(4) ロトはその町に避難したが、結局は、その町を出て山に住むようになる(30節)。

3. ツォアル到着

(1)「太陽が地上に上ったころ、ロトはツォアルに着いた」

(2) ロトにとっては、悪夢のような一夜が明けた。

(3) 彼は、家族を救おうとして労したが、結局助かったのは4人だけ。

4. ソドムとゴモラの滅び

「そのとき、【主】はソドムとゴモラの上に、硫黄の火を天の【主】のところから降らせ、これらの町々と低地全体と、その町々の住民と、その地の植物をみな滅ぼされた」

(1)「主」(ヤハウエ)という語が、2度出てくる。

- ①神の存在の複数性を示している。
- ②神が三位一体であることを暗示している。

(2) 滅ぼされた町々は、ソドム、ゴモラ、アダマ、ツェボイム

①14:2、14:8、申29:23

②滅ぼされる前は、その辺り一帯はエデンの園のようであった。

(3) 専門用語について

- ①「滅ぼす」とは「ハフアク」
- ②「洪水」は「マブール」
- ③ともに、Ⅱペテ2：4～9に出てくる。
 - *「洪水」は「カタクルスモス (kataklysmos)」
 - *英語の「cataclysm (大洪水、地殻の激変、社会的大変動)」
 - *「滅び」(overthrow ひっくり返す、破壊する)は「カタストロフエイ」
 - *英語の「catastrophe (破滅、破局、カタストロフィー)」

5. ロトは、もうひとり家族を失う。

- (1) ロトの妻は、ソドムの生活を懐かしがり、うしろを振り返り、塩の柱になった。
- (2) 新約聖書の警告
 - 「ロトの妻を思い出さない。自分のいのちを救おうと努める者はそれを失い、それを失う者はいのちを保ちます」(ルカ17：32)

6. アブラハムの行動

- (1) 前日とりなしの祈りをした場所に行った。心配だった。
 - ①町々が滅ぼされる様子を見て、10人の義人がいなかったことを知った。
 - ②ロトがどうなったかは、この時点では分からない。
- (2) 18章から続いてきた一連の物語の結論が、19：29に書かれている。

「こうして、神が低地の町々を滅ぼされたとき、神はアブラハムを覚えておられた。それで、ロトが住んでいた町々を滅ぼされたとき、神はロトをその破壊の中からのがれさせた」

 - ① 罪に対する神のさばきの厳しさ。
 - ② アブラハム契約のゆえに、アブラハムの祈りのゆえに、ロトが救われた。
 - ③ 彼の祈りの精神は、聞かれた。
 - ④ 「覚えておられた」とは、忘れていなかったという意味ではない。
 - ⑤この語は、記憶ではなく、行動を示している。

V. 人生の総決算

1. ソドムの罪はロトの罪として終結する。
 - (1) その結果、2つの民族が誕生する。
 - (2) 彼らはイスラエルの歴史の中の「とげ」となる。
2. その経緯

- (1) ロトは山に逃げることを恐れてツォアルに住むことを願い、それが許される。
 - (2) しかし彼は、ツォアルに住むことを恐れ、ほら穴の中に住むようになる。
 - ①ツォアルはソドムと同じ罪を犯していたので、滅ぼされる心配があった。
 - ②ツォアルの人たちから殺されるかもしれないという恐れがあった。
 - ③その町はロトと娘たちが安心して住める場所ではなかった。
3. ふたりの娘たちは、子孫を残すためにある策略を練った。
- (1) 父によって子孫を残すという方法。
 - (2) 父の子孫を残すという崇高な目的のために、罪を犯した。
 - (3) これは、近親相姦(レビ18:6~18)の罪に当たる。
 - (4) 娘たちの内側にソドムの影響が残っていた。
 - (5) ロトとその娘たちによって、ソドムがモアブ人とアモン人という形で再生した。
 - ①姉が産んだ子。モアブ(父から)。モアブ人の先祖
 - ②妹が産んだ子。ベン・アミ(私の民の息子、私の親族の息子)。アモン人の先祖
 - (6) モアブは、今日のヨルダン中部、アモンはヨルダン北部。
4. この個所を最後に、ロトの名前は聖書から消える。
- (1) 人類救済の歴史から見ると、彼の存在が何の意味も持たなくなった。
 - (2) これ以降は、モアブとアモンがロトに代わって聖書の舞台に登場する。
 - ①イスラエルの民に対して、歴史上最悪の姦淫と偶像礼拝の罪を犯させる。
 - ②民25章のバアル・ペオルの事件
 - ③レビ18:21のモレク礼拝の禁止

結論

1. 神が最も憎まれる罪とは何か。
 - (1) 罪には、深刻さの段階がある。
 - (2) 同性愛の罪は、弁護の余地のないものである。
 - (3) マタ11:23~24 メシアを拒否する罪は、さらに重い。

2. 絶望の中に見える希望の光とは何か(恵みの要素)。
 - (1) ロトの評価
 - ①Ⅱペテ2:6~9 ロトは義人
 - ②ソドムに住むこと自体は、罪ではない。
 - ③ソドムの住民は、ロトが何を信じていたかを知っていた。

④ロトは、義の行為にゆえに迫害された。

⑤ そうでなければ、今日、クリスチャンの住む場所がなくなる。

(2) ソドムの回復

①千年王国において

②エゼ 16 : 44~57

(3) モアブ人の子孫

①ルツの誕生

②彼女は、ボアズと結婚し、オベデ、エッサイ、ダビデとつながる。

③彼女は、メシアの家系にその名を留めることになる。